

世田谷の小1 村井さん きょうだいで夏休み毎朝



「毎朝ごみ拾いを終えてすぐに記録をつけた」という村井ひとみさん＝世田谷区で

自由研究は「ごみ拾い」

東京都市大付属小学校（世田谷区成城）一年生の村井ひとみさん（七）は、夏休みの自由研究で、家族と毎日、自宅近くの多摩川沿いのごみを拾い、数を記録した。ひとみさんが生まれる前の二〇〇七年から姉や兄らが続けており、拾った数の経年変動もまとめた。

ひとみさんは区内で食品輸入業を営む父和愉さん（四七）、母麻子さん（四七）の次女で四人きょうだいの末っ子。ごみ拾いの自由研究は、姉あかりさん（二〇）が同

小六年、長兄晶さん（一七）が同小四年の時に始めた。

和愉さんが、ごみ拾いをすると心もきれいになるという大企業の社長の話に感銘を受けて始めた活動に、夏休みの子どもたちが加わった。自宅前の八百屋にわたり道路や草むらでごみを拾い歩いた。たばこ、空き缶、ペットボトルなど種類ごとに数を記録、リサイクルの仕組みなどとともにとめた。

同小を今春卒業した次兄皓さん（一七）とひとみさんも、幼児のころから早起き

してごみを拾った。当初は車のバッテリーやエアコンの室外機など大きなごみもあったが、区に連絡して引き取ってもらい、目立つごみがなくなると、捨てられなくなった。近所の人に「ありがとう」と声をかけられることも増えた。

きょうだいで自由研究を受け継ぎ、毎年のように校内で入賞。今年も優秀賞に輝いた。九年間、たばこは千二本から六百七十本に、ペットボトルは五十二本から三十一本に減ったが、拾つごみがゼロの日はない。ひとみさんは「いつかごみを捨てる人がいなくなっしてほしい」という願いを込め、「これからも続けたい」と話す。

ほかの入賞作品とともに、二子玉川ライズ（玉川二）の二子玉川夢キャンパスで一般公開されている。二十四日まで、入場無料。問い合わせは同キャンパス
電話03（5797）9504へ。（小形佳奈）